

今号の
 トピックス

文科省発表の事実をばやかした眼軸長調査をグラフで明確化 ～大人の平均眼軸長を男子で小6から、女子で中2から超え～

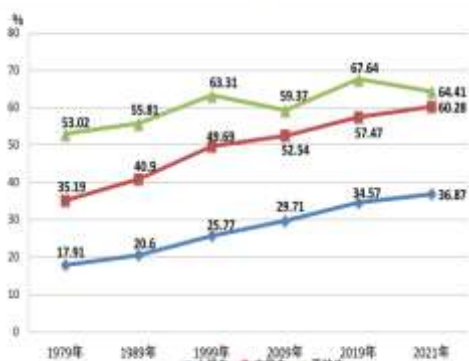


NHKが「超近視時代」『目にとってかつてない危険な時代に』とWeb特設サイトを立ち上げたのは2021年2月でした。目の長さ＝「眼軸」が延びてラグビーボールのような形になる『眼軸性近視』が多いという内容に驚愕させられました。文科省は同年4月～12月に初めて眼軸長の調査を実施し、その結果が今年6月に公表されましたが、わかりにくい報告書でした。そこで、THInet開発委員会(視覚分野チーフ・水野)が数値をグラフ化し、大人の平均眼軸を男子で小6から、女子で中2から超えている事実を視覚化しました。

子どもたちには屋外活動によりバイオレット光(太陽光)を浴びる必要性と、端末との適切な距離をとることを啓発することが求められています。文科省は、誰に何に付度しているのでしょうか。(矢野・大谷)

〔視力の現状・ランドルト環調査〕

裸眼視力1.0未満の児童生徒の割合の推移

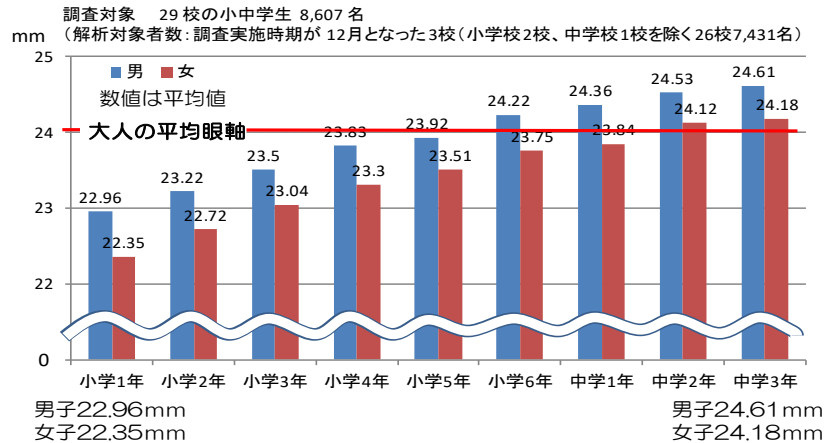


- ◆1979～2021年(42年間)
 裸眼視力1.0未満児童生徒の増加
 小学生⇒1.7倍 中学生⇒2.1倍
- ◆1979～2019年(40年間)
 裸眼視力0.3未満児童生徒の増加
 小学生⇒3.5倍 中学生⇒2.1倍

〔眼軸長・文科省調査結果・2021年〕

- ◆期間/2021年3年4月～12月
 29校中、26校においては学校健診が行われる4月から6月に調査を実施。一部の小中学校においては、12月の実施。
- ◆調査対象/29校の小中学生 8,607名
- ◆解析対象者数/調査実施時期が12月となった3校(小学校2校、中学校1校を除く26校7,431名)

令和3年近視実態調査 眼軸の長さ



出典: <https://www3.nhk.or.jp/news/html/20220623/k10013684861000.html>
 文科省 令和3年度近視実態調査より水野が作成 ©THInet2022水野史代 44

〔強度近視の現状・先行研究〕

2019年8月の慶應義塾大学医学部眼科学教室、坪田一男教授グループの調査報告による、東京都内の小中学生対象の眼の屈折値、眼軸長の測定による近視率。ランドルト環調査の約倍。

	小学校 (689人)	中学校 (727人)
全体の近視の割合(%)	76.5	94.9
上記内の強度近視の割合(%)	4.0	11.3

出典: [小中学生の近視増加傾向への警鐘—都内小学生の約80%、都内中学生の約95%が近視—: \[慶應義塾\(keio.ac.jp\)\]](https://www.keio.ac.jp/)

◆眼軸性近視急増の外的要因

- * スマホなどの普及で小さい頃から近くを見ることの増加。近業作業と長時間使用の急増による。
- * 外遊びの減少により、太陽光のバイオレット光(眼軸の延びを抑える遺伝子を活性化させる)を浴びることが減少したため。
- * 睡眠不足等
- ◆一度眼軸が延びると戻らないため、予防と近視の進行抑制が重要です。
- ◆近視は眼鏡等で調整できますが、強度近視へと移行し、さらに病的近視と悪化すると、白内障・緑内障・網膜剥離など眼病に罹患するリスクも高まると指摘されています。